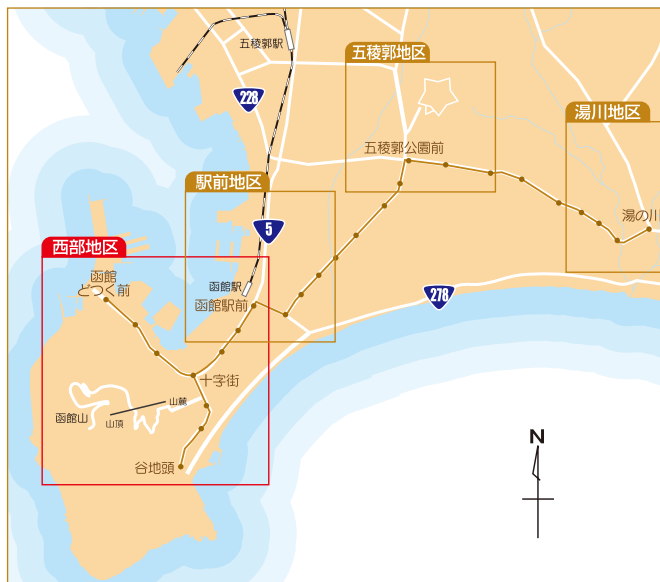


函館全体エリアマップ



西部地区



スタート地点までのアクセス

JR函館駅から1.4km(徒歩20分)
市電(函館駅前より函館どつく前・谷地頭行き)5分

函館 知ってる? 知ってる?

函館の坂～護国神社坂～

護国神社に通じることからこの名称が付けられました。坂には松の木を配したグリーンベルトが車道と歩道の間にあり、他の坂とはまた異なった表情で訪れる人を魅了してくれます。護国神社は昔、招魂社と呼ばれていて、その名前から「招魂社の坂」とも呼ばれていました。招魂社とは箱館戦争で旧幕府脱走軍が降伏した後、官軍の戦死者を祀るために建てられたものです。また、この坂は「倒産坂」という別名も持ち、坂に面して門を作ると招魂社に不敬であり、罰があたって必ず“かまど”がつぶれるといわれていました。なお、一般的には明治14年(1881)に坂の上に汐見町ができたことから「汐見坂」と呼ばれていたそうです。



函館市電路線図

湯の川～十字街間は最短6分間隔で運転しています。

7分	5～6分	16～17分	15～16分
函館どつく前 大町 末広町 十字街	魚市場通 市役所前 函館駅前 松風町 新川町 千歳町 昭和橋 堀川町 千代台	中央病院前 五稜郭公園前 杉並町 柏木町 深堀町 駒場車庫前 駒場馬場前 アリーナ前 湯の川温泉 湯の川	
谷地頭 青柳町 宝来町			
7～8分			



乗車料金のお支払いには nimoca, Kitaca, Suica, など
各種交通系 IC カードがご利用いただけます。

お得な! 市電1日乗車券販売中! 大人800円・小人400円

お求めは車内のほか、沿線の一部ホテル、コンビニなどでどうぞ!

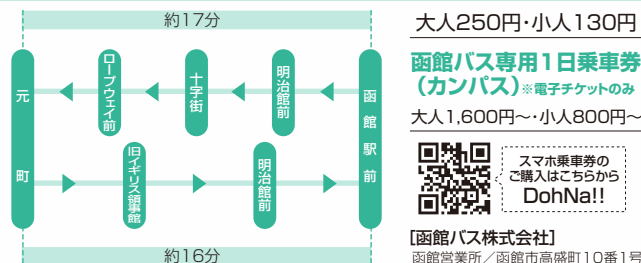
【函館市企業局】 函館市駒場町15番1号 TEL.0138-32-1730

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014012100939/>

ケータイから各電停の時刻表も見られる!



「元町・ペイエリア周遊号」元町観光にとっても便利な循環バス(バス停は主な停留所を記載)
「元町・ペイエリア周遊号」をご利用下さい。



大人250円・小人130円

函館バス専用1日乗車券
(キャンパス)※電子チケットのみ

大人1,600円～・小人800円～



【函館バス株式会社】
函館営業所 / 函館市高盛町10番1号
TEL.0138-51-3135



函館市公式 観光情報サイト“はこぶら”
<https://www.hakobura.jp/>



発行・お問合せ先



函館市観光部

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号
TEL.0138-21-3323

※2026年6月現在の情報です。使用できる施設・価格等が変更になる場合がございます。

(2026年7月発行)

ひと

3

函館 まちあるきマップ

北の豪商 高田屋嘉兵衛物語

～箱館の繁栄の基礎を築いた高田屋嘉兵衛の足跡を辿る～

所要時間 45分 距離 1.3km 消費カロリー 140kcal

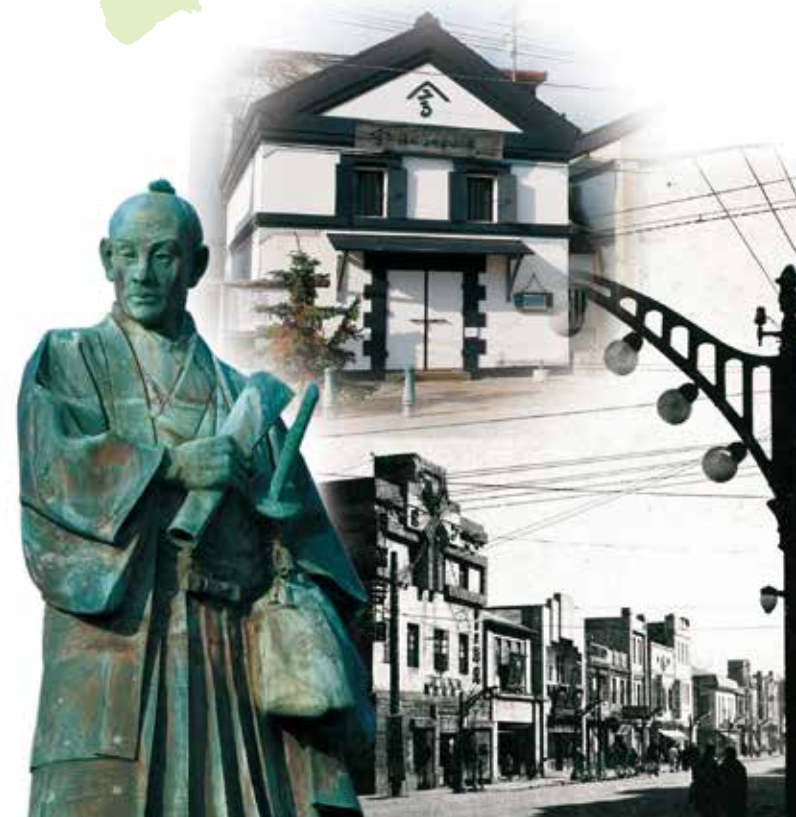
・函館市地域交流まちづくりセンター

・箱館高田屋嘉兵衛資料館

・銀座通り

・高田屋敷跡

・高田屋嘉兵衛像





高田屋嘉兵衛 (1769~1827)

淡路島生まれの豪商。28歳のとき箱館に渡り、北前船と呼ばれる廻船業・漁場経営などの事業を手掛け、巨額の富を築く一方、外交問題に発展した「ゴロウニン事件」の平和的解決や、私財を投じて地域貢献に尽力するなど、箱館繁栄に寄与した人物。

※函館市を含む52市町の北前船寄港地 日本遺産認定(令和7年5月現在)

※ゴロウニン事件: 国後島において、松前藩がロシア軍艦ディアナ号艦長ゴロウニン少佐以下8名を捕らえたが、その報復措置として嘉兵衛自身も一時ロシアに捕らえられ、自ら解決のため交渉にあたった事件。

① 函館市地域交流まちづくりセンター



大正12年(1923)創建の丸井今井百貨店函館支店の建物を、外観を残しながら安全性のための改修を施して、再生したもの。この新たなランドマークは市民活動の支援や、市民交流の場、地域情報の発信拠点となっている。

開館 9:00~21:00 休 年末年始

② 箱館高田屋嘉兵衛資料館



高田屋嘉兵衛の生涯と足跡を今に伝える資料館(かつて昆布倉庫として使われていた建物に注目)。

開館 祝日のそく毎週水木金曜 13:00~16:00※冬季休館
入場料 大人700円

撮影オススメポイント!!

- 喫茶・休憩
- おみやげ・売店
- 食事処
- トイレ
- 多目的トイレ
- 駐車場
- 元町・ベイエリア周遊号バス停
- サイクルステーション

③ 銀座通り(写真は昭和初期)



高田屋が活躍していた頃は、高田屋の屋敷から現在の赤レンガ倉庫群のあたりまで続く水路であり、数多くの船が行き交った。明治20年代初期に埋め立てられ、現在のような姿となった。

※写真提供/函館市中央図書館

④ 高田屋屋敷跡



高田屋の全盛は、嘉兵衛のあとを継いだ金兵衛(嘉兵衛の弟)が、幕府の許可を得てこの地域5万坪を拝借し、その一角に豪壮な邸宅を建てた頃である。その規模は敷地面積で2町(約220m)四方もあり、高価な石なども置かれていた。

⑤ 高田屋嘉兵衛像



高田屋嘉兵衛の功績をたたえ、ともに、函館開港100年を記念して昭和33年(1958)に建立された銅像。この姿は、ロシア軍艦ディアナ号が捕らわれていたゴロウニン船長を引き取るため、箱館に入港した際に立ち会った時をイメージして造られた。

北の豪商 高田屋嘉兵衛物語 ~箱館の繁栄の基礎を築いた高田屋嘉兵衛の足跡を辿る~

所要時間 45分 距離 1.3km 消費カロリー 140kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。

